

高水管理 洪水被害を軽減する

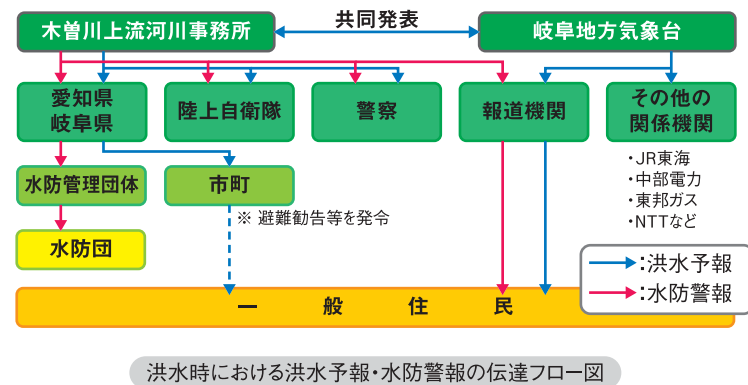
洪水を予測する

国土交通省と気象庁では河川の増水によるはん濫の恐れがある場合に、あらかじめ指定した河川について区間を決めて水位または流量を示した洪水の予測を行っています。

※洪水予報の内容は、気象庁のホームページから閲覧することができます。

気象庁の洪水予報HPアドレス

<http://www.jma.go.jp/jp/flood/>



防災情報における水位の名称について

これまでも河川の水位情報については、インターネットなどを通じて皆さんに情報提供をしてきました。しかし、近年のたび重なる災害により「発信者側の用語・表現が受け手側の的確な判断や行動に繋がるものとなっていない」という課題が浮き彫りとなりました。

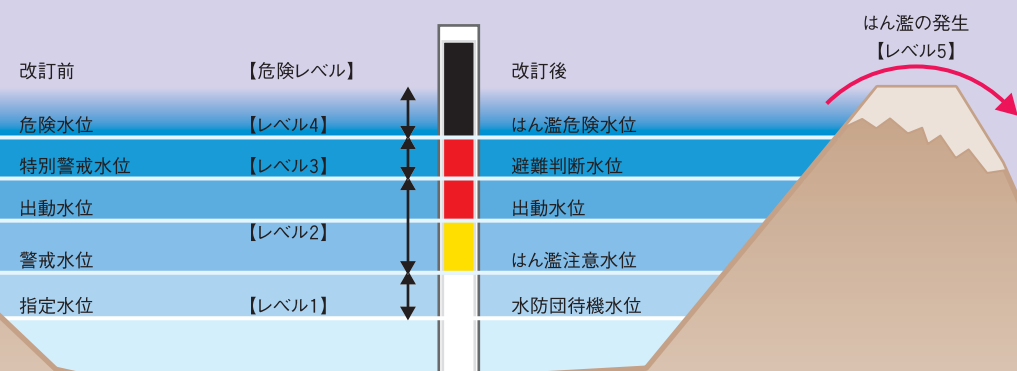
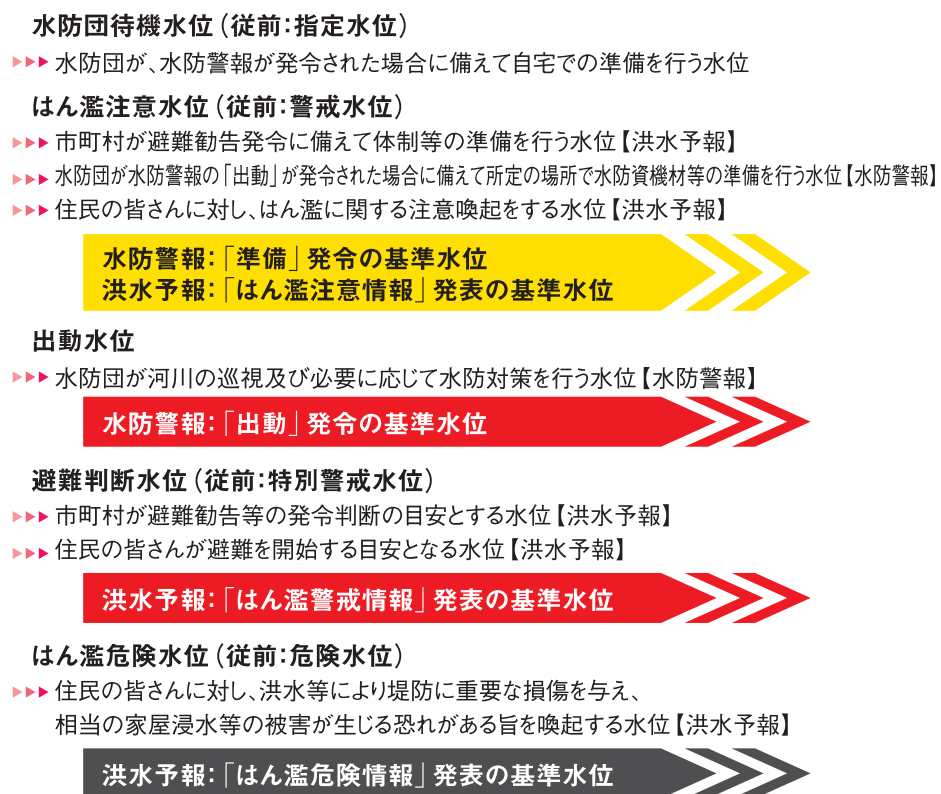
このような意見を踏まえ、洪水時の水位の状況と、その時に住民の皆さんが取るべき行動について、平成19年4月より分かりやすい用語への見直しを行っています。

水防警報

国土交通省では、河川の増水やはん濫などによって災害が発生するおそれがある場合、水防活動を行う必要がある旨を警告します。

水防活動

水防団が水防計画に基づき、水防上必要な監視のほか、被害の発生防止および拡大防止のための水防工法などを行います。



ダムのさらなる機能強化を目指して

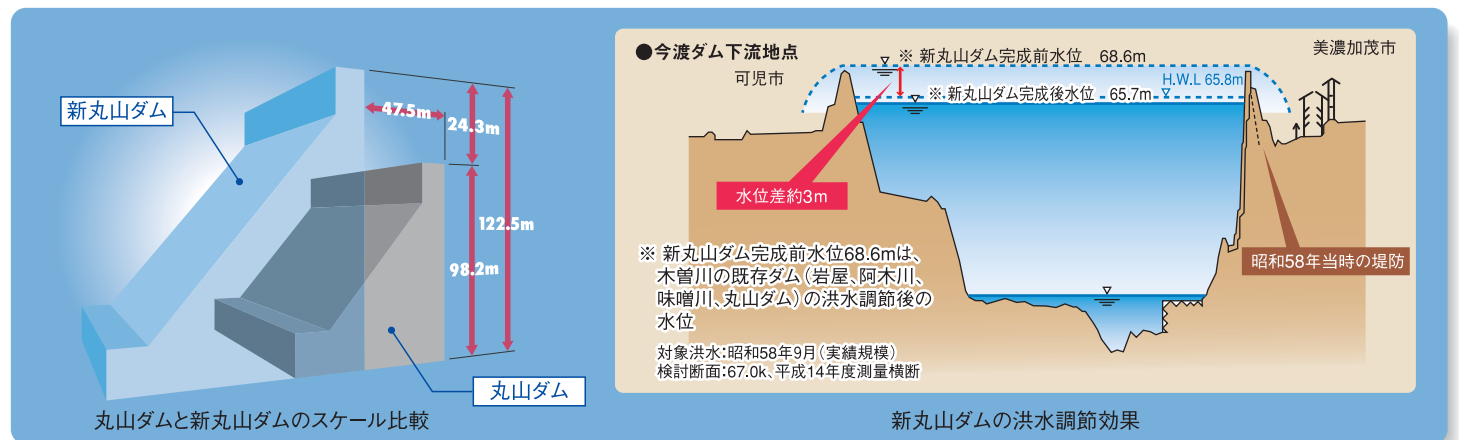
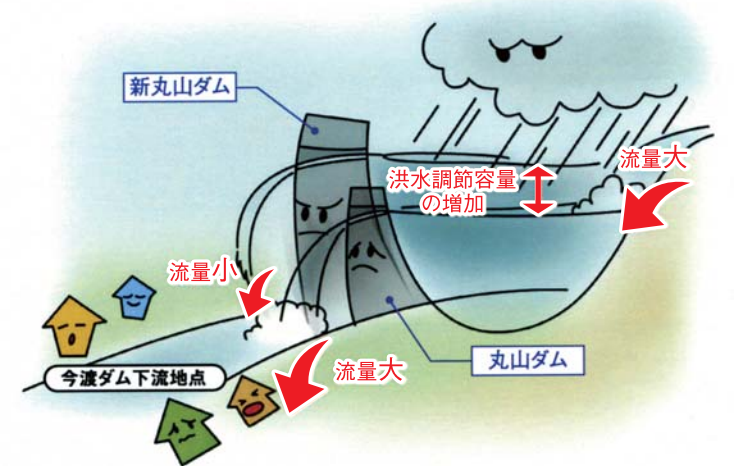
新丸山ダム建設事業

■ 新丸山ダムの嵩上げによる洪水調節機能の増強

既設丸山ダムの嵩上げを行い、新たに約6,700万m³の容量を確保して、洪水調節機能の増強、既得取水の安定化、河川環境の保全のための流水の確保、及び発電を行います。

この新丸山ダムの嵩上げにより、犬山地点におけるダム調節前流量毎秒19,500m³(計画流量)をその他ダムの洪水調節効果と併せて毎秒13,500m³まで低減させます。

また、戦後最大規模の洪水である昭和58年(1983年)9月洪水に対して、新丸山ダムと既設ダムにより毎秒約4,000m³の洪水調節を行うことが可能となり、美濃加茂市の今渡ダム下流地点では水位を最大3m程度低減させることが可能となります。



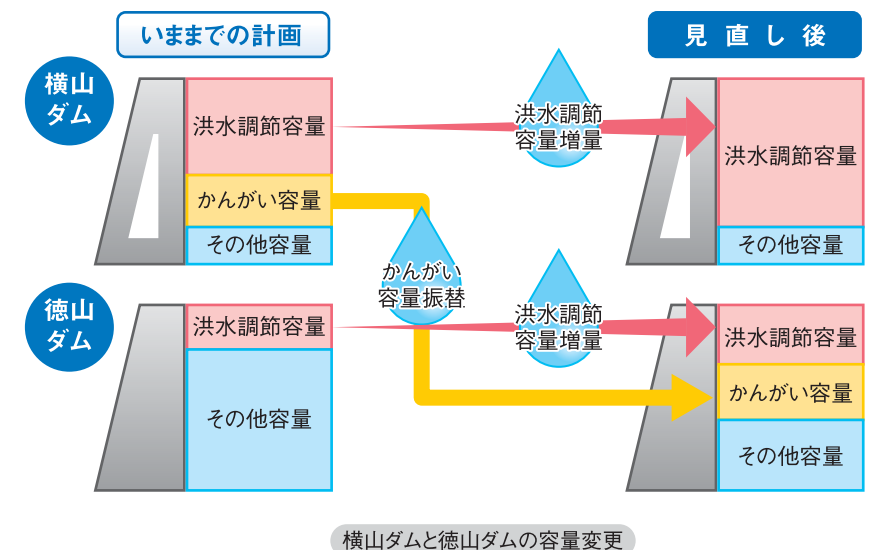
横山ダムの再開発事業

■ 洪水調節計画の見直し

横山ダムでは徳山ダムと一体となって洪水調節計画の見直しを行い、横山ダムのかんがい容量を徳山ダムに振り替えて、洪水調節容量を増量することにより、揖斐川の治水安全度のさらなる向上を図りました。

■ ダム湖の土砂を撤去

現在ダムにたまっている土砂を掘ってダム容量の回復をはかるとともに、ダム貯水池の中に土砂が流れ込まないようにするための堰（貯砂堰）をつくる工事を実施しました。



横山ダムと徳山ダムの容量変更

用語解説

治水安全度

その河川が安全に洪水を流下させることができる水の量を、確率で表現したものを治水安全度といいます。